

# 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第88期中間期（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境につきましては、米国の内需が堅調に推移しているものの、中国をはじめとした新興国経済の減速、資源国や欧州の景気低迷に加え、国内では個人消費の停滞、英国のEU離脱問題や地政学的リスクの増大に伴う一層の円高の進行など先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは本年4月にスタートした中期経営計画1618に掲げた目標の達成に向けて、インダストリアル市場向けについては、今後成長が期待される車載、住宅、環境エネルギー、情報通信などのグローバル市場への拡販に努めるとともに、同市場向け新製品の開発に努めました。コンシューマ市場向けについては、多様化する流通形態に対応した販売体制の見直しと顧客ごとのコンセプトに対応した製品の開発に努めました。また、環境配慮製品として高く評価をいただいているFUJITSU充電電池のプロモーションの一つとして製品のイメージサウンドを国内外に発信するとともに、イメージサウンドの作曲者とコラボレーションしたライブイベントを開催し、SNSなどを通じてグローバルでのブランド認知度の向上に努めました。防災機器・セキュリティ用途ならびに車載用途向けなどビジネスが拡大基調にあるリチウム電池においては、リチウム電池と電子製品のシナジー製品の開発促進、経営資源やビジネス情報の共有化による一層の経営効率化を目的に、FDK鳥取株式会社を本年10月1日付で吸収合併いたしました。

当中間期の経営成績につきましては、売上高はアルカリ乾電池やニッケル水素電池が世界的な個人消費低迷の影響を受けたものの、新たに低価格モデルを投入し、数量が増加したことにより計画どおりに推移いたしました。電子事業の一般的な落ち込み、さらに円高に伴う換算の目減りの影響が加わったことにより、前年同期に比べ35億54百万円減の370億56百万円となりました。

損益面につきましては、急速に数量が伸長する電池製品に対して、コストダウンと当社グループ一丸となった費用の削減に取り組んだものの、円高の進行、材料価格の上昇や電子

事業における大幅な売上減により、3億76百万円の営業損失となりました。経常損失は、円高による為替差損により6億89百万円となり、親会社株主に帰属する中間純損失は、8億92百万円となりました。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと存じます。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

下期以降につきましては、上期と同様に国内では個人消費の停滞、為替変動による収益の下振れ懸念、海外では地政学リスクの増大により先行き不透明で厳しい状況が継続すると予想されます。

そのようななか、アルカリ乾電池については、コンシューマ市場での最需期に対応し売上拡大を図るとともに、引き続き材料コストダウンに努め、品質および生産性のさらなる改善を推し進めてまいります。ニッケル水素電池は、高い安全性・幅広い温度特性・長寿命といった特長を活かし、国内外での供給数量拡大に努め、さらに新技術の開発にも注力することで事業の拡大を図ってまいります。リチウム電池は、防災機器・セキュリティ用途ならびに車載用途への生産数量拡大に向けた増産対応を図るとともに、市場開拓してまいりました薄形電池の量産出荷も進めてまいります。電子事業につきましては、最適な生産拠点への移管など、収益改善に向けた施策に待たなしで取り組み、事業の建て直しを図ってまいります。

これらの施策により、厳しい事業環境でも企業体質の強化と経営品質の向上により企業価値を高め、中期経営計画1618の達成に向けて邁進してまいります。

今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成28年12月



代表取締役社長 望月道正